第Ⅱ部　生徒指導の機能を生かした「道徳の時間」

近年の少年非行の状況は，問題行動が戦後第４のピークと言われた平成１０年度と比較すると減少の傾向はあるものの，平成１５年の沖縄や長崎での中学生による殺人事件など，低年齢化と凶悪化が進んでおり，深刻な社会問題となっている。また，平成１４年度の広島県における生徒指導上の諸問題の現状によると小・中学校における暴力行為，いじめの発生件数については減少に転じているが，不登校児童生徒の割合は依然として増加している。生徒指導上の諸問題の解決を図るためにも，児童生徒が安心して，楽しく有意義な学校生活を送ることができるよう，生徒指導の一層の充実を急がなければならない。

こうした中で，本県では，平成１４年度から生徒指導の充実を図る目的で，道徳教育実践研究指定事業に取り組み，一定の成果を上げることができた。

ここで，なぜ道徳教育で積極的な生徒指導を図ることができるのかという疑問に対して，「生徒指導のてびき」（平成１３年３月　広島県教育委員会）を引用して考えたい。

	暴力行為	いじめ	不登校
平成１３年度	58	15	121
平成１４年度	27	12	117

道徳教育実践研究指定校15校における生徒指導上の諸問題の状況（数字は15校全体での件数）

第１章　生徒指導の理念について

１　生徒指導の意義

生徒指導の意義は，問題行動への対応といった消極的な面だけでなく，すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達をめざすとともに，将来，社会において自己実現ができるよう指導･援助するといった積極的な面をもっています。

生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり，生徒指導は教育活動の全領域で行うことが必要です。

生徒指導をすすめるに当たっては，教職員が児童生徒との望ましい人間関係にたった児童生徒理解を深めるとともに，共通理解のもとで，すべての教職員が生徒指導に取り組んでいくことが重要です。

…中略…

今後の，生徒指導をすすめるに当たっては，次の３点を強調していく必要があります。

（１）　自己肯定感の育成

「自分の行為に対して自信がもてない」「他人からどう思われているか常に気になる」「同世代の人と同じことをしていなければ取り残されたような気になる」など，自分の在り方生き方をみいだすことができない児童生徒が増えています。

授業，学級（ホームルーム）活動，児童（生徒）会活動，文化祭・体育祭などの学校行事，部活動などの中で，自分の存在感を味わうことができ，集団への所属感がもてるよう指導する必要があります。

（２）　自律の育成

「自分さえよければよい」「他人に迷惑をかけなければ何をしてもよい」「友人が何をしていようと自分には関係ない」などといった考え方をもち，自由，気ままに行動する児童生徒が増えています。

児童生徒が，社会のルールを守り，互いをかけがえのない存在として認め合い，よりよい社会を実現するために貢献できる人間となるよう指導しなければなりません。

また，金銭強要，暴力行為，強盗，暴走行為など犯罪行為については，「社会において許されない行為は，学校においても許されない」といった児童生徒の規範意識を育てることが重要です。

（３） 自己責任の明確化

児童生徒が自分の行動を振り返り，自分がかかわったことについて，他人のせいにすることなく，自分でできるだけ責任をとっていくといった姿勢を育てていくことが必要です。責任の取り方については，年齢に応じて自分で考え，行動できるように指導していくことが重要です。

また，犯罪行為には，学校の指導に加えて，民事上，刑事上，行政上の責任のほかに，道義的な責任があることを指導しておくことが重要です。

（広島県教育委員会「生徒指導のてびき」平成１３年３月）

このように，生徒指導の意義をみると，深い児童生徒理解を基盤としていることがわかる。特に，人間としての在り方生き方について考えさせ，児童生徒に自己の在り方生き方を見出させる取組みは，まさに道徳教育の目指すものと同一である（下線部参照）。したがって，道徳の時間における指導は，積極的な生徒指導としての一つのアプローチである。

道徳の時間は，人間としての生き方を考えるきっかけとなる一つの資料をもとに児童生徒が自分自身の生き方をじっくり見つめ直し，仲間や教師と考えや感じ方を交流することを通して主体的に道徳的価値の自覚を深める時間である。児童生徒が主体的に価値とかかわれるように「自己決定の場を与える」授業や互いの考え方や感じ方が温かく受け入れられる「自己存在感を与える」授業，さらに教師と児童生徒が温かい信頼関係の中で，「人間的ふれあいを基盤」としながら本音でぶつかり合える授業を展開すれば，問題行動の未然防止につながるとともに，すべての児童生徒のよりよき人格の発達につながると考えられる。

この章では，道徳教育を通じて生徒指導上の諸問題の解決を図るため「基本的な生活習慣」「違法行為」「人間関係」のカテゴリーで整理し，様々な授業実践例を紹介している。それぞれの授業は，取り組もうとする問題に直接又は間接的に関連する資料をもとに複数の内容項目（価値）を主題にすえて実践されている。資料と児童生徒の問題行動を重ね合わせて問題となる行為について考えさせるだけではなく，その背景にある道徳的価値について内面的な自覚を促し，深めることが目的である。児童生徒の発達段階である小学校の６年間，中学校の３年間を見通し，適切な指導の時期をとらえて計画的に実施するとともに，緊急な社会の情勢，学級の実態，課題を抱えた児童生徒の状況等から総合的に判断して実施することが大切である。

（１）頭髪・服装の指導に生かす

頭髪・服装の乱れに関わる問題は，生徒指導の長年の課題であるが，その現象は多様化してきている。そのため，学校では明確な規準を設け，それを教職員間で徹底するとともに，指導の意義や方法について，児童生徒及び保護者にあらかじめ説明しておく必要がある。

これまで頭髪・服装の違反についての指導は，基本的な生活規律の一つとして，全体への指導を踏まえて，違反した児童生徒への個別の指導を中心に行われてきた。一般的に，服装や頭髪の乱れという現象は他の生活面の乱れにもつながっている場合が多い。そうした生活面と照らし合わせて気になる場合や，指導を重ねても改善が見られない場合などは，さらに保護者との連携を密にして指導を進め，課題を克服していけるよう努力してきた。また，これまで学校で行われてきた頭髪や服装についての取組みには，身だしなみに関わる点検活動や保健指導的側面（染色等は髪を痛めるなど）からのアプローチや，進路指導的側面（入試等の面接試験など）からのアプローチなども改善を目指す手段として行われてきた。しかし，こうした表に現れている事象にとらわれた指導となると，児童生徒の心に響くものとはなりにくく，形は改善されたとしても，「根っこ」を変えるには至らないと考える。児童生徒とじっくりと話し合い，児童生徒の心に触れ，児童生徒の「心の叫び」に耳を傾ける教職員の姿勢が必要である。

そこで道徳の時間では，頭髪・服装違反といった行動としてあらわれる，人間の持つ内面の問題を探っていくことを大切にしたい。また，課題を克服する力となるよう展望をもったものにしていきたい。頭髪・服装の違反は，その時どきの流行やファッションのみを追いかけ変化してきているようにも見えるが，学校や地域の中での帰属意識が持てていなかったり，自分に対する自信や誇りが見いだせなかったり，家族や友人との人間関係がうまくいかないことからくる不安やストレスが背景にある場合も多い。その他にも，理由や背景はさまざまであると思われるが，いずれの場合にせよ規則を破ることに表れた，これら児童生徒の心のサインをしっかり受け止めていくことが重要である。内面から自己を見つめ，やればできるのだという達成感を育てることや，集団の一員として，まわりのことも視野にいれながら行動していけるような心を育てていく時間となるようにしていきたい。

集団への帰属意識を高め，児童生徒が自律的・主体的によりよい生活を実現していこうとする力を育てていくためにも，これまで以上に生徒指導と道徳の時間とを関連させながら，取組みを進めていくことが大切である。

（1）主題名　望ましい生活習慣〔中学校　1－（1）〕　　関連項目〔3－（3）〕
（2）ねらい　望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け調和のある生活をしようとする態度を養う。
（3）資料名　「金色の髪」（出典：よりよく生きる　3年　学宝社）

資料の概要
本資料は「私には今夢がある。…しかし，自分が今抱いている夢にたどりつくまでには長い長い道のりがあった。」という書き出しで始まる。仲間からはずれていき，自分は邪魔者なんだという思いをもち，髪の毛を脱色し，さらには授業妨害や器物破損など非行を繰り返していた少女が，警察沙汰となる一つの大きな事件を起こしたことをきっかけとして，更正の道を歩み始め，将来の希望を実現する決意を発表したという内容である。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　生活面でルーズになってきたことについて考える。	○学年の初めに立てた生活の目標の中で，守れなくなったと思うものにはどんなものがあるだろうか。 ・早寝早起き ・忘れ物をしない ・家庭学習を毎日する　など	○学期初めなどに立てた目標をもとに，事前アンケートを取っておき自分の生活を振り返らせる。 （集計結果をクイズ形式にしてもよい）
展開	2　資料の前半を読み，なぜ筆者の生活が乱れていったのかを考える。	○生活が乱れ，髪を染めたころの筆者はどんな気持ちだっただろう。 ・自分は邪魔者なのだ ・ひとりぼっちは苦しくてつらい ・何もかもがいやになった ・自分なんかどうなったっていい	○満足感や充実感が見出せなかった筆者の気持ちと，その後の行動について自分と照らし合わせて考えさせる。
	3　資料の後半を読み，なぜ筆者は今までの生活を変えようとしたのかを考える。	○今までの生活を何とかしようと思ったのは，どうしてだろう。 ・施設に入れられそうになったから ・人に迷惑をかけそれを反省したから ・世の中にはお金に換えられない大切なものがあると知ったから	○動機は不十分かもしれないが，そのあと発見したものの大きさに気付かせる。
		○生活が安定してからの筆者の気持ちは，どのように変わっていったか。 ・気持ちが安定し，周囲のことも考えられるようになった ・何事にも前向きになり，将来の夢を持つようになった	○気持ちが安定し，意欲的になると，生活習慣にも表れていくことに気付かせる。
	4　資料全体を通じて，筆者の思いを感じとる。	◎筆者が一番訴えたかったこととは何だろう。 ・どんな時でもあきらめず頑張れば必ず道は開ける ・自分を良くするも悪くするも，他人のせいではなく，自分自身なのだ	○反省をしたり，大きく変わりたいと思うのは，どんな時か，自分の経験を振り返り考えさせる。
終末	5　教師の説話を聞く。	○過去の教師自身の経験や，実例などを話す。	○アンケート結果も振り返り，次への新たな意欲へとつながるようにする。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

望ましい生活習慣を身に付けていく上で，ちょうど思春期を迎えた中学生の時期は重要な位置をしめていると考える。自分のことは自分で判断し，行動に表したいという自我が芽生える時期でもある。そうした反面，他者からの忠告や指示に対して素直になれず，反抗的な態度になったり，また，周りを意識しすぎて自分の本心が出せないという悩みを抱えることも多く見られる。

本資料の主人公も，自分自身を見失い，周りからは阻害されているという思いを持ち，次第に自暴自棄に陥ってしまう。髪の毛を染めたり，警察沙汰になるような違法行為を繰り返す中で，自分を見つめ直し，他人に対する思いやりや，将来への展望を見つけ更正に向かっていくという内容である。主人公の心の動きを通し，自分自身の生活を見つめ直すきっかけとなる資料であると考える。

２　指導過程の工夫

自分の長所について，自信を持って言える生徒は意外に少ない。学年始めに立てた目標も時間と共に達成感が薄れ，守れなくなってきていると感じることがらも次第に増えてきていた。そのため普段の生活について自分自身を振り返らせ，具体的に立てた目標が今どのようになっているかアンケートをもとに考えさせた。

本資料を通し，自分自身の生活を振り返ることも行ってみた。ただし，できなくなったことへの反省にするのではなく，その時々での自分の気持ちをしっかりと見つめ直し，生活を安定させることと，自分の行動面に表れることとは関連していることに気付かせるよう工夫した。

また，将来の自分を思い描かせることで，前向きに生きていくことの大切さについても理解させるようにした。

３　発問の工夫

アンケート結果は，できなかった自分を反省させるという視点ではなく，なぜ，そのような結果になったのかを見つめさせた。それと同時に，他の友だちの結果や思いにも触れ，これからどのように考え，努力すべきなのかという視点を持ち，集団として前向きに捉えていくよう指導していった。

４　生徒の反応

頭髪や服装を守ることの大切さを，学校のきまりだからと捉える生徒もいた。また，自分が周りから注目を集めたいという思いから外見的なものにこだわってしまうという意見もあった。主人公の思いについてもある程度の理解はできた者もいるが，実際の生活の中で自分を見つめ，前向きに努力し，行動化することの大切さについては，今後も継続していくことが大切であると実感した。

５　授業後のフォローアップ

具体的な現象面として表れやすいのが，頭髪や服装の問題である。今後も生徒理解に努め，生徒自身が自らを正していこうとする力となり，よりよい生活習慣を身に付けていけるよう，家庭や地域とも連帯し，支援を続けていくことが大切である。

（清和中学校）

（２）遅刻の指導に生かす

遅刻する児童生徒には，さまざまな実態がある。家庭の夜型の生活スタイルやテレビの長時間視聴などから，生活リズムが崩れ，朝起きることができないという児童生徒，「学校がおもしろくない」「勉強がわからない」「仲のよい友だちがいない」など学校自体に魅力を感じることができず，登校がおっくうになる児童生徒，生活環境が不安定であったり，交友関係の乱れなどから，怠惰傾向が見られる児童生徒もいる。また，残念ながら，「いじめられる」ことも要因の一つであろう。さらに，それらが心的な要因となって，体の変調をきたしている児童生徒もいる。このように，個々の実態があり，理由があるため，児童生徒一人一人に適した指導を行う必要がある。

指導に当たっては，実態を具体的に把握し，傾向や課題を明らかにしていくことから始め，学校での指導，家庭との緊密な連携をとるという対応をしてきた。個別指導においては，教師との信頼関係を築くことが大切である。学級においても，お互いに声を掛け合える集団に高め，一緒に登校するなど，かかわりを深めるよう指導したり，児童・生徒会活動や学級活動などでは，時間を守ることの大切さを話し合い，「遅刻０（ゼロ）運動」や朝校門に立って活動するなど，時間を守り，主体的に遅刻をなくすよう取り組むことを指導したりしている。これらの指導効果をあげる前提としては，まず，学級や学校の土壌づくりが必要であり，さらに指導場面を学級・学校全体に広げ，児童生徒一人一人の心を耕していくことが大切である。（『生徒指導のてびき』P.54 参照）

また，道徳の時間においても工夫が必要である。例えば，遅刻については，時間を守ることの大切さや有意義な使い方について考え，生活を振り返ったり，自分の日々の生活習慣について見直したりすることで，生活のリズムを身に付けさせたい。また，日常生活の中で自分の目標や楽しみを見つけ，学校へ行きたい，学校が楽しい，友だちと会いたいなど生活意欲が湧くようにする。そして，希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さを指導していきたい。一方，時間を守らないことは，他者に迷惑をかけていることはもちろん，自分にも大きな損失があることに気付かせていく。また，人に迷惑をかけていることに気付いてない児童生徒には，自分だけの問題ではないことに気付かせたい。集団生活をする上で約束やきまりを守り，自分に課せられた義務を果たすことが，他人の権利を尊重し，自分の権利も主張できることに気付かせる。また，自分がしたいようにするのが自由ではなく，本当の自由とは，自分の責任を踏まえた規律ある行動であることを指導する。他にも，社会に出た時の厳しさややりがいなどをゲストティーチャー（地域の方や保護者）に話してもらい，その人の生き方を知り，自分の生き方についても考えるきっかけとなるようにするなど，道徳の時間の中で押し付けるのではなく心に響くような指導をし，自分に自信を持つことができ，自分を大切にし，　他の人も大切にすることができる児童生徒を育てていきたい。同時に，家庭・地域にも呼びかけて授業にも参加してもらい，ともに児童生徒を育てていく気運を高めていきたい。

参考　「生徒指導のてびき」P５４より

【Ｑ１】遅刻などの指導はどうすればよいですか。

【A】

次のような指導を行います。

①　集団において時間を守ることの大切さや，それが家庭における基本的な生活規律の上に成り立っていることを理解させて，家庭と緊密な連携をとって指導します。

②　児童生徒の実態を細かく把握し，傾向や課題を明らかにします。年・学期・月・週などの具体的な目標を設定して，学校全体や学年や学級（ホームルーム）活動で取り組みます。

③　学級（ホームルーム）活動や委員会などで植物を育てたり，行事の練習を組んだり，ボランティア活動をしたりして，始業前に登校し余裕をもって臨めば気持ち良く楽しく学校生活を送ることができることを経験させ習慣化させます。

④　遅刻の多い児童生徒には，個人ノートなどに一日の生活を記入させるなど，自分の生活を振り返らせ，遅刻の原因を明らかにさせて，児童生徒自身で改善策を考え実行できるよう支援し，日常生活を計画的に設計するための習慣を身につけさせます。

⑤　児童（生徒）会活動や学級（ホームルーム）活動などで，遅刻の問題点や遅刻のない学校のすばらしさを考えさせ，遅刻ゼロ運動をするなど，児童生徒が自主的に遅刻をなくすよう取り組むことを指導します。

（1）主題名　思りょの深さ　〔小学校高１－（１)〕
（2）ねらい　自分の生活を振り返り，節度を守り，けじめのある生活をしようとする態度を養う。
（3）資料名　「ついむちゅうになって」（出典：新しい道徳６　光文書院）

資料の概要
心待ちにしていた社会科見学に出かけた「ぼく」は，博物館で，佐藤君と一緒に興味を持っていた化石に夢中になった。そして，集合時刻に遅れてしまい，みんなに迷惑をかけてしまう。そのために，次の美術館見学を楽しみにしていた友だちの時間を奪い，非難を浴びる。「もっとゆっくり見たかったなあ。・・・というささやきが，僕の耳につきささった」という文末の言葉には，「ぼく」の反省がよく表現されている。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　時間について意識させる。	○目をつむって，１分間たったと思ったときに手を挙げましょう。 ・実際より早く（おそく）感じた ・一人一人の時間の感覚は違う	○ゲーム感覚でリラックスさせ，一人一人の時間に対する感覚の違いを知らせ，資料に入る。
展開	2　資料を読み，主人公の気持ちを話し合う。 3　ほかの人に迷惑をかけてしまったことを発表する。	○化石などを見ていたときの「ぼく」と佐藤君はどんな気持ちだったでしょう。 ・色々な化石があっておもしろい ・ゆっくり見てみたい ○待たされていた人たちはどんな気持ちだったでしょう。 ・待ち遠しい ・早く来ないと次の見学場所でゆっくりできない ◎不満の声を聞いた「ぼくたち」は，どのようなことを考えたと思いますか。 ・両親に言われたことを思い出した ・時間を守らないと人に迷惑をかけてしまう ○自分が約束を守らずに，人を待たせたことがありますか。 ・遊びの約束時刻に遅れた ・掃除開始時刻に遅れた ○どうして，そのようなことになったのでしょうか。 ・人のことを考えなかった ・このぐらいいいかと思った	○「ぼく」の気持ちの変化に注目させながら読ませる。 ○夢中になって，集合時刻を忘れている二人の様子をとらえさせる。 ○反省している主人公の気持ちに共感させる。 ○「時間を守る」こともけじめであることに気付かせたい。 ○そのときの心情について考えさせていくようにする。 ○その結果どうなったかをしっかり認識させる。
終末	4　学習のまとめをする。	○教師の体験談を聞き，今日の学習で思ったことを書いてみよう。（ワークシートに記入。） ・時間を守らないとみんなに迷惑をかけるので気を付けていきたい ・けじめをつけて，自分の生活をきちんとしていきたい。	○教師の体験談や「ぼく」の心情から，これからの生活のあり方について考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

何事にもけじめを付けることができない人間は自らをだめにするばかりか，周囲の人々にも迷惑を及ぼすことになる。本資料は自由行動の時，友だちと一緒に，興味を持っていた化石に夢中になっているうちに，集合時刻に遅れてしまった「ぼく」が，両親の言葉や，友だちの非難の声から，反省していく姿が見られる内容である。主人公の気持ちを対比させることによって，けじめのある生活と勝手気ままな生活との違いを理解させることができる。

２　指導過程の工夫

導入では，ゲームを取り入れ，リラックスさせると同時に，一人一人の時間に対する感覚の違いを知らせるようにした。

展開では，物事に夢中になっている「ぼく」と，他の人に迷惑をかけたことに反省をしている「ぼく」の気持ちに視点を当てて考えさせるようにした。

さらに，自分の経験を出させることによって，その時の心情や結果を考えさせ，自分の行動を振り返らせるようにした。

終末では教師の体験談や「ぼく」の心情から，自分の生活を振り返り，ワークシートにまとめさせるようにしていった。

３　発問の工夫

夢中になって，集合時刻を忘れている二人の様子と，反省している主人公の気持ちを考えさせるとともに，待たされた人の気持ちにも焦点を当てて，いろいろな人の立場に気付かせるようにしていった。

主人公の「ぼく」と同じように，けじめがなかったために他の人に迷惑をかけてしまったことを考えさせることで，その行動の背景にも気付かせるようにした。

終末の教師の体験談で，待たされた立場の時は「こんなことを言われたから，すぐ許せたよ。」という内容を入れるとよい。

４　児童の反応

不満の声を聞いた「ぼくたち」の気持ちを考える場面では，「時間を気にしながら行動しなければならない。」「いくら好きだから夢中になるといっても，決められたことはきちんと行動しなければならない。」などの意見が出るなど，どのような行動をとるべきか，一人一人考えることができた。

修学旅行も近く，児童にとって，身近なこととして考えることができた。

５　授業後のフォローアップ

学校生活の中で，授業開始時刻や掃除時刻など，時刻を守ることについて日々の生活の中で意識をして行動できるようにしていくことが必要である。

修学旅行をひかえ，自由行動の過ごし方や集団生活の中でのけじめについて，心がけていくことに気付き，行動化できるようにしていきたい。

また，家庭生活の中でも，けじめのある生活が送れるよう，家庭教育との連携が必要であると考えられる。

（栗原北小学校）

（1） 主題名　時間を守る　〔中学校　１－（1)〕　　関連項目　〔１－（3)〕〔４－（6)〕

（2） ねらい　時間を大切にするとともに，日常生活において必要な基本的生活習慣を，進んで身につけようとする態度を育てる。

（3） 資料名　「古びた目覚し時計」（出典：１自分を見つめる　暁教育図書）

資料の概要

筆者の父が，中学生のころ，自覚して生活規律を確立していく過程を我が子に語って聞かせる資料である。父の中学生のころの心情を，生徒一人一人に感じ取らせながら，望ましい生活習慣について考えさせることができる。

（4） 学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　自分自身の日頃の生活習慣を振り返る。	○自分自身の日頃の生活習慣において，家でよく注意されることを思い出して発表しよう。 ・早く起きなさい　・早く寝なさい　等 ○朝どうやって起きますか。 ・親に起こしてもらう　　・自分で起きる	○深入りせず,時間をかけすぎない。
展開	2　資料を読んで，人物の心情を考える。 3　「心のベル」について班で話し合い，発表する。	○資料「古びた目覚し時計」を読もう。 ・自分の場合と比べながら聞く ○「朝寝坊」の場面をグループごとに再現しよう。 ・　「朝」の場面をイメージする ○「もうすぐ中学生になるのに一人で起きられないのか」と叱られた時の昭夫の気持ちはどんなだっただろう。 ・おばあちゃんが起こしてくれないからだ ・起きられないんだ，仕方ないじゃないか ○新しい目覚し時計を買ってもらい，約束した後誰も起こさなかったのはなぜだろう。 ・自分で起きられるようになってほしい ・自分で起きると約束したんだから，責任を持ってほしい ○自分で起きようと決心したのはなぜだろう。 ・人に頼ってばかりではいけない ・約束はきちんと守らないといけない ◎壊れた目覚し時計は今もベルを鳴らしているといっているが,「心のベル」とは何だろうか。 ・時間の大切さを教えてくれたもの ・自分を自覚させてくれたもの	○目覚し時計のベルを効果音に使用する。 ○会話部分だけを,役になりきって読ませる。 ○自分本位の感情で親を責める気持ちや腹立たしい気持ちに共感させる。 ○早く自立してほしいという親の願いと,子どもに対する親の愛情を感じ取らせる。 ○昭夫の心の変化に気付かせる。 ○規律ある生活をするための心構えがあるか自分自身を振り返らせる。
終末	4　自分の今後の生活を考える。	○自分の生活習慣について振り返り，今後の生活で心がけようと考えていることを，「道徳ノート」に書いてみよう。 ・自分の力で起きるようにする ・時間を大切にしたい	○今後の生き方に役立てるために自分はどうするかをさぐらせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は,「遅刻」の問題を通して，両親に頼りがちであった自分を反省し，自らの生活を見直すことによって，節度と調和のある生活習慣を確立していく内容である。昭夫の気持ちや心の動き，それを見守る両親の気持ちに視点を当て,「なぜ, 古びて壊れた目覚し時計を宝物としているのか」を深く考えさせるとともに,「心のベルはみんなの中にもあるだろうか」「それを鳴らすのは誰であるのか」を追求する。それによって，自らの生活を振り返らせ，よりよい習慣を身に付けるためには，自らの意志や努力が重要であること，充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚させ，ねらいに迫りたい。

２　指導過程の工夫

導入で自分自身の生活を振り返らせ，家でよく注意されることは時間に関することが多いことを確認させる。その上で「古びた目覚し時計」を効果音入りで読み，自分自身の生活とだぶらせる。また,「朝寝坊」の場面をグループごとで再現することによって，より身近な問題としてとらえさせる。さらに，昭夫や家族の心情を読み取っていくことで,「心のベル」とは何かを探り，よりよい生活習慣を身につけようとする意欲につなげていこうとした。

３　発問の工夫

「家でよく注意されること」を発表させることにより，普段の生活に思いをめぐらさせた。さらに,「朝寝坊の場面をグループごとに再現しよう」では，よりリアルに自分たちの生活を見つめ直すきっかけとした。そして, 昭夫の言動・心情に沿いながら「壊れた目覚し時計は今もベルを鳴らしているといっているが，心のベルとは何か」という中心発問へともっていった。「みんなには心のベルがあるか」という切り返しの発問によって，自分の生活習慣を振り返らせ今後の基本的生活習慣を考えさせた。

４　生徒の反応

昭夫と同じように，家族に朝起こしてもらう生徒が多かったので，身近な問題として取り組むことができた。また，目覚し時計のベルを効果音に使用することで興味付けとなった。さらに,「朝寝坊」の場面の再現を取り入れて，昭夫の気持ちを考えさせたのは効果的であった。そのため，時間を大切にしようとする意識が高まり，今からの生活で大切にしていかなければいけないことも考えさせることができた。授業後の感想文にも「朝一人で起きれるようにしたい」とか「時間を大切にして遅れないようにしたい」といったものが多かった。

５　授業後のフォローアップ

「生活ノート」の生活時間を毎日見ることによって，生徒の実態を見ていく。また，学校生活の中でも，時間を意識して行動ができているかを全教職員でとらえていく。時には，折に触れ，学級活動や生徒会の生活委員会等でも取り上げて考えていきたい。

（豊栄中学校）

（3）不要物持込みの指導に生かす

学校に，お菓子やお金・ゲーム・必要以上の文房具など，不必要な物を持ってくるという状況がよく見られる。そのほとんどが悪いとわかっていて持ってきているであろう。不要物を持ってくる理由として，友だちの関心を引きたい，学校と家の区別がつかない，集団としての意識が欠けているということなどが考えられる。中には，不要物を持ってくることで自分の存在を周囲に示そうとする児童生徒もいる。

不要物についての基本的な考え方については，校内で議論し，全教職員が共通認識をしっかりと持った上で指導を行っている。児童生徒には，学級会や児童・生徒会活動において，不要物の持参について話し合わせたり，考えさせたりすることで，自分たちの問題として考えさせている。さらに，不要物の持ち主が特定できた場合については，児童生徒に対して，今後の行動についての約束を交わす中で，児童生徒が主体的にそれを守っていくように指導し，保護者に対しては，学校・学級だよりで，不要物等の持ち物に対する内容について知らせたり，必要な場合においては家庭連絡をしている。しかしながら，児童生徒一人一人の心に響かず，教師や保護者の目の行き届かないところで，不要物の持込みが蔓延化している場合があり，根気強く継続的に指導をしていくことが必要になっている。

携帯電話については，犯罪につながるケースが報告されるなど，扱い方によっては危険性を伴う。しかし，その利便性は高く，子どもと家庭との連絡に必要と考えている保護者は多い。各学校では，携帯電話についての指導方針を定め，児童生徒に，携帯電話の問題点（『生徒指導のてびき』P.55 参照）を整理させ，考えさせる指導を行っている。また，保護者には，学校の指導方針について理解を求め，協力を呼びかけている。

道徳の時間においては，学校のきまりの意義を理解させることが大切になってくる。「公徳心，規則尊重・遵法，権利・義務」について学習する中で，なぜきまりができたのかを問いかけ，きまりの意義について考えさせたい。また，自由と自分勝手の違いを知り，「自由と規律」について考えさせ，自由な生活をするには，自分の心を律することが大切であることに気付かせ，自分の生活を見つめさせていきたい。さらに，平素の生活態度や学校への持ち物等を振り返るために，「思慮・反省，節度・節制」についての学習を組んでいきたい。その学習を通して，節度を守り，けじめのある生活をしようとする態度，さらに，よりよい集団になろうとする心情，よりよい学校にしていこうとする心情を育てることができると思われる。そのことが，児童生徒一人一人の生活意欲を高め，友だちと楽しく，満足した学校生活を送ることにつながるであろう。そうすれば，不要物を持ち込むという行動が減少していくのではないかと考える。

参考　「生徒指導のてびき」P５５より

【Ｑ３】　携帯電話やＰＨＳやポケベルの問題点は，どういうものがあり，学校でどう指導したらよいですか。

【A】

次のような問題点があります。

①　呼び出されて暴力をうけたり，喧嘩などの加勢の連絡に使われる場合があります。

②　携帯電話やＰＨＳやポケベルを通じて援助交際をしたり，覚せい剤などの薬物を手にいれたりすることなどに使われています。

③　携帯電話やＰＨＳやポケベルの使用料を稼ぐためにアルバイトをしたりして，学校生活がおろそかになったり，望ましくない友人関係ができるなど他の問題行動を引き起こす誘因になっています。

④　自分の知らない間に，携帯電話やＰＨＳやポケベルの番号が第三者に知れ，見知らぬ人からかかってきて，脅迫や金銭（品）強要や嫌がらせをうけるなどの問題が起きています。

⑤　授業中などに携帯電話やＰＨＳなどの呼び出し音が鳴るなど授業妨害になったり，メール交換をするなど授業に集中できない場合があります。

⑥　保護者の知らないところで子どもが自由に交信するため，子どもの交友関係の把握が難しくなります。

以上のような問題点と学校の指導方針を保護者に十分説明し，理解を得るよう努めます。また，児童生徒に，問題点を整理させ，自分で考えさせます。

（1）主題名　公徳心〔中学校　４－（３)〕　　関連項目〔２－（１)〕
（2）ねらい　よりよい集団や社会を作り上げることをめざし，社会連帯の自覚と公徳心を持って行動しようとする気持ちを育てる。
（3）資料名　「パブリック？プライベート？」（出典：３　自分をのばす　暁教育図書）

資料の概要
電車内の床に座り込み，化粧をしたり，ジュースを飲んだり，携帯電話を使用したりと傍若無人な振る舞いをする高校生のグループ。それを目にした主人公の女子生徒は，同じ車内で偶然ＡＬＴのモーリス先生と居合わせた。そこで，モーリス先生から祖国カナダでは，パブリックとプライベートをはっきり区別していることを聞く。普段見慣れた光景であったが，この言葉に女子生徒の心は揺れる。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　公衆の場での携帯電話の使用について考える。	○電車やバスなどに乗っている時，携帯電話の使用について，どのようなアナウンスが流れるか。 ・携帯電話の電源をきってください ・マナーモードにしてください ○電源を切るよう放送されるのはなぜだろう ・周りの人が迷惑するから	○発表の後に，実際の放送を録音したものや禁止のマークを見聞きさせ，資料への関心を高める。 ○マナーの問題だけでなく，命に関わる（心臓ペースメーカー等）ことを押さえる。
展開	2　資料を読んで，パブリック（公共の場）について考える。 3　「恥ずかしさ」とは何かについて考える。 4　社会性について考える。	○公共の場所で迷惑や不愉快に感じたことがありますか。 ・平気でゴミを捨てる行為 ・騒がしくて迷惑をかける行為 ○モーリス先生は，なぜ，高校生たちの行動を「恥ずかしいこと」と言ったのだろう。 ・周りの人に迷惑をかけていることに気付いていないから ・私的な場ですることと公的な場でして良いことの区別がついていないから ◎筆者が「後でかけ直す」と言ったのはなぜだろう。 ・周りの迷惑になってはいけないと思ったから ・モーリス先生の話を思い出したから	○自分勝手な態度や行為が周囲の人たちに迷惑をかけたり，不快感を与えている場面を想起させる。 ○なぜ，不愉快なのか，体験を通して考えさせる。 ○同じ行為であっても，私的なものと公的なものとを区別することができるかどうかは何によって決まるのか考えさせる。 ○人を大切にすることと社会性を身に付けることとはつながっていることに気付かせる。
終末	5　よりよい社会の実現について考える。	○それぞれの登場人物の気持ちを振り返り，自分が思ったことや意見を「心のノート」にまとめ，記入する。	○おばあさんの態度から改めて筆者が社会性を意識したことに気付かせ，その後の行動へと変化した心の動きを感じとらせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

公衆の場でのルールやマナーについて，最近特に乱れてきている状況がある。生徒も学校という集団の一員だけでなく，地域という広い意味での社会にも所属し，活動することも多い。最近では，携帯電話の所有が急増し，さらには低年齢化しつつある。そして，不用意な使用が金銭問題や犯罪に関わる事例としても発生してきている。

本資料でも公共の場と私的な場との区別がつかず，他人に対して不愉快さを感じさせたり，迷惑行為になっていることにすら気付けていない高校生が登場する。「恥ずかしさ」とは何であるかを理解し，人を大切にすることと社会性を身に付けることとの関わりに気付かせ，さらに，自分自身の行動を客観的に見つめていける力を育てていける題材であると思われる。

２　指導過程の工夫

自分さえ楽しければそれでよい，あるいは他人には迷惑をかけていないからよいとか，自分だけではない，周りにも同じような人はいるという意識の中で，私的なことと公的なこととの区別がつかない場面が多く見られる。

本資料では，特に携帯電話の使用について，どう考えるかを中心に展開した。確かに，携帯電話は便利であるし，緊急時に連絡をとったりすることもあるので，不必要な物と断定はできない。しかしながら，その使用が時として他人の命や安全にも関わることにつながることもあり，ルールやマナーとしてだけではないことも改めて考えさせ，社会性について理解するための題材として工夫した。

３　発問の工夫

最近では，公共の乗り物や公共の場所で携帯電話の使用についてのアナウンスをよく聞くようになった。生徒も，日常的に聞くそれらのことばを無意識ながら記憶にとどめている。なぜ，それらのアナウンスがされるのかという初発の質問を契機に，公徳心について考えていった。

また，「恥ずかしい」という言葉も人によっては随分と捉え方が違っている。同じ行為であっても，公的な場ですべきではないことも多い。それらも含め，自己の行動を振り返らせ，客観的に見つめていけるよう工夫した。

４　生徒の反応

生徒の実態として携帯電話を持っている，あるいは持ちたいと思っている人数は多い。マナーは守らなければいけないという感想の生徒も多かったが，実際自分を振り返ったとき，資料で登場するマナーに欠けた高校生の行動と似た経験（バス通学中に騒がしくしたなど）があると答えた生徒も見られた。

５　授業後のフォローアップ

先にも述べたように，地域社会の中でも生徒は育てられている。生徒たちの自発的行動を見守りながら，ルールやマナーについても，これからも学校のみならず地域や保護者とも連携し，大切にする心を育てていけるよう指導を継続していきたい。

（清和中学校）

（1）主題名　きまりの意義〔小学校高４－（２)〕　関連項目〔２－（３)，４－（３)〕

（2）ねらい　きまりの意義を理解し，進んできまりを守ろうとする態度を養う。

（3）資料名　「一粒のアメ」（出典：道しるべ１　正進社）

資料の概要

最初は断りながらも，遅刻をするのではないかと不安にかられ，昇の誘いにのってきまりを破り，自転車登校をしてしまった寛。文化祭の準備で遅くなった放課後，昇の出したアメを前に「校則違反」を主張する和男と「ちょっとぐらい」と言う昇に賛同し，食べるみんな。再びきまりを守るべきかどうかの判断を迫られ葛藤する寛だった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　資料を読み場面状況をつかむ。	○資料を聞いて場面状況をつかもう。 ・放課後の教室，七粒のアメ ・校則違反だと言う和夫，食べるみんな，主人公（寛）は・・・	○主人公（寛）の置かれている状況を共通理解させる。
展開	2　課題を確認する。	○課題を確認しよう。 アメをもらった寛は どうすればよいだろう。	○寛が困っている状況から課題を設定する。
	3　考えを出し合う。	○自分の考えを出し合おう。 【食べる】 ・アメ一粒くらい ・仲間はずれになりたくない ・いい子ぶっていると見られたくない ・食べた友だちの立場を悪くしたくない 【食べない】 ・きまりを破ると落ち着かない ・朝の不安な気持ちはもう嫌だ ・いけないことはいけない ・迎合することが友だちではない	○ネームプレートを使い，課題に対する一人一人の判断とその理由をはっきりさせる。 ○理由の違いを分類・整理して板書し，自他の考えの違いに気付かせる。
	4　質問や意見を出し合い，追究する。	○きまりを破る後ろめたさをもちながら，友だちでいられるのだろうか。 ・自分をごまかし続けられない ・状況や人に流されては・・・ ○きまりを守る意志をとおすと，今後の関係を悪くしないだろうか。 ・本当の友だち関係をつくりたい ・ずっと友だちでいたい ○きまりを守る・守らないは，自分だけの問題なのだろうか。 ・きまりだから守るのかな ・みんなが好き勝手をしたら・・・	○矛盾やくいちがいについて意見を出し合い，焦点化していく。 ○深めるためには，左のような発問を準備しておく。 ○きまりについての体験を出し合いながら考えさせる。
終末	5　まとめる。	○今日の学習での自分の考えをまとめよう。 ・学校のリーダーとして ・友だちとして	○自分を振り返りながら自分の言葉でまとめる

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

児童は，不要物を学校に持ち込むことはよくないと考えている。と同時に，相手とのかかわりやその場の雰囲気で，少しぐらいならといった思いももっている。こうした矛盾する思いは，日常のさまざまな場面で起こりがちである。したがって，本資料の主人公（寛）の立場にも同化しやすく，自分に置き換え，揺れている思いを明らかにしつつ，どうすることがよいのか自己を振り返るのに適した資料だと考える。

２　指導過程の工夫

資料を範読し，場面状況を確認した後，児童の課題意識をもとに「アメをもらった後，寛はどうすればよいだろう。」 と学習課題を提示した。

本資料では，本音での迷いや葛藤を出し合えることが授業のスタートと考えた。そのため，直接的に「自分だったら～」と問うことでの上滑りを避け，語りやすくするために，主人公（寛）の行為を問う課題にした。また，行為に伴う理由付けは，自分の思いや体験がベースになっていると考えた。

行為そのものではなく理由の違いが大切なので，ネームプレートを使い一人一人の考えを位置付け，分類・整理して板書をすることで，思考を深める手がかりとした。

それぞれの考えの矛盾点や相違点について意見を出し合ったり，自身の体験を出し合ったりしながら，共感し考えを深めていくことができた。

３　発問の工夫

課題に対してのそれぞれの考えを出し合った後，「質問や意見はありませんか。」と問うた。自分の考えとのずれやくいちがいについて相手に問うことを通して，論点をはっきりさせ深めていった。また，体験を尋ねたり，「きまりを守る・守らないは自分だけの問題なのだろうか」と切り返すことにより，目の前の事象だけでなく，きまりの意義について考えさせた。

４　児童の反応

課題に対し，「実は迷っている」という意見をきっかけに，「よくないとは思うが放課後だし，疲れているのでアメ一粒ぐらいなら食べたい」「みんな食べているし，勧められたら断りにくい」「きまりは守らないといけないが・・・」等の意見が出された。しかし，質問や意見を出し合い集団思考する中で「きまりがある以上，きまりはきまりとして守る責任がある」「校則は自分ひとりのものではない」「みんなが好き勝手をしだしたら・・。最高学年として絶対してはならない」「きまりだから守ると言っていると，きまりだらけになる。それでは息が詰まる。自分で考えないと・・・」などの意見交流により，再考することができた。

５　授業後のフォローアップ

日常生活の中できまりについて意識させていくことが大切である。また，保護者や地域と連携をとりながら，継続的に規範意識を育てていく取組みが必要だと考える。

（竹尋小学校）

（４）怠学の指導に生かす

本来，子どもたちは，「勉強がわかるようになりたい」「運動ができるようになりたい」「みんなから認められたい」という願いを持っている。しかしながら，学習でのつまずき，人間関係の乱れ，生活環境の変化等，さまざまな要因によって，その願いを達成しようとする意欲が押しつぶされそうになっている児童生徒がいる。そうした児童生徒は，遅刻してきたり，何かと理由をつけて授業に出なかったり，中には保健室等を逃げ場にしたりしている。授業に位置付いたとしても，学習についてこられない場合が多いため，やる気が続きにくく，悪循環を繰り返すこともある。そのため，何よりも，授業方法を工夫してわかる授業を行い，授業の中で成就感を味わわせることが必要である。また，別途に学習の機会を設け，個別に指導をすることで，わかる喜びを経験させることが大切である。

個別指導においては，十分に児童生徒と関わり，話をしていきたい。「朝遅れるのはどうしてか。」「どうして授業に出ないのか。」「自分にできそうなものは何か。」など，いろいろと話合いをし，まず，「朝は遅れずに学校に来よう」「〇〇の授業は受けるようにしよう。」「クラブはがんばってみよう。」と，身近なことから始めて自信をつけさせるなど，本人との約束の積み重ねを少しずつ増やしていくことで，学校生活への意欲を高めていく方法もある。その際，取組みを保護者にも理解してもらい，「家庭でも規則正しい生活をさせる。」「朝は学校に間に合うように必ず家を出す。」「本人の甘えを絶対に許さない。」など，学校の方針に協力してもらうことも大切である。しかしながら，ややもすると，行動面の改善に力が注がれ，児童生徒の内面への取組みに欠けていた状況もあったのではないかと思われる。

そこで，道徳の時間を使って，本人に家庭でも学校でも大切にされている，心配されているのだという「自己存在感」を感じさせたい。また，目標を持たせるという意味で「理想の実現」や「自己の確立」について考えさせ，自分の当面の目標に向かって，最後まであきらめずに粘り強く「やり抜く力」や「自主自律」の精神を養うことの大切さを学ばせることが重要である。さらに，本人を取り巻く仲間や家族など周囲の「支え合い」も重要な要因であると考えられるので，道徳の時間を通して「思いやりや優しさ」「他者理解」など，周りへの働きかけも積極的に行っていく。生徒指導からのアプローチと併せて，道徳の時間に本人と周囲の生徒の心をしっかり耕すことを並行して行うことによって，問題解決に向けて取り組んでいくことが重要である。

参考　「生徒指導のてびき」P５６より

【Ｑ５】　授業をエスケープする児童生徒に対して，どう指導すればよいですか。

【A】

次のような指導を行います。

①　授業方法を工夫して，わかる授業を行い，授業の中で成就感を味わわせたり，授業に対する興味・関心を育てます。

②　エスケープする児童生徒は，授業がわからなくなっている場合があり，別途に学習の機会を設けたり，個別に指導したりしてわかる喜びを経験させ，授業に出させます

③　児童生徒の授業の出欠について組織的に把握できる体制を整え，できるだけ早くエスケープした児童生徒の所在や安全が確認できるようにします。

④　家庭と連携して，エスケープする児童生徒の心情や背景に迫り指導します。

⑤　計画的・組織的に校内を巡回したりして，エスケープした児童生徒の指導の徹底を図ります。

（1）主題名　自由と自分勝手　　〔小学校高1－（3）〕

（2）ねらい　自由と自分勝手の違いがわかり，規律に支えられた自由を実現していこうとする意欲を高める。

（3）資料名　「文枝のため息」（出典：新しい道徳５　光文書院）

資料の概要

姉の大学進学に伴い，二人部屋から一人部屋となった文枝は，一時は自由になることに有頂天になった。しかし，一人で生活することや責任を持って行動することに対して，「自由って，大変だなあ。・・・大まちがい。」と自由に行動することに対して認識を新たにしていく。この文枝の心の内に視点を当てていくことで，自由について文枝が学んだことや自由と自分勝手の違いを際だたせていくことができる。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　自由へのあこがれについて話し合う。	○自由になったらいいなと，どんなときに思いましたか。 ・人に言われていやいややらないといけない時 ・「きまり」を守らないといけない時	○自由のもたらすよさを話題にする。 ○自由に対する関心を持たせる。
展開	2　資料を読んで話し合う。 3　自由な行動の良さを，自分たちの体験から見つけ出す。	○文枝が自由になって自分でするようになったことは何ですか。 ・朝，起きること ・部屋の使い方 ・貯金の管理 ○自由にできることが増えて喜んだ文枝は，どんな気持ちだったのでしょう。 ・自分のやりたいようにできる ・今までより生活が楽しくなる ○文枝は，「自由ってたいへんだなあ。」と言っていますが，どうしてたいへんだと思ったのでしょう。 ・自分のことは自分で全部する ・貯金の使い方がきちんとできない ・朝一人で起きることができない ◎文枝は自由について，どのようなことを学んだと思いますか。 ・自由と自分勝手とは違う ・やることをきちんとやって初めて自由のよさがある ○「自由があったから，こんなことができた。」と，人に紹介できることはありませんか。 ・夏休み中の自由研究で ・野球の自主練習で ・社会見学での自由行動で	○自由に対する楽しさを，自分の体験を交えて考えさせる。 ○「自分勝手」という思いが潜んでいることに気付かせる。 ○自由な行動の裏には，責任ある態度が必要であること，それによって真の自由が味わえることに気付かせる。 ○今までの自由に対する考え方と合わせ，自由に対する考えを深めさせる。 ○自由と自分勝手の違いに気付かせる。 ○自由な行動がもたらした「よい事例」に焦点を当てさせる。 ○自由にできる意志を生かした場面を思い出させ，自由のよさを味わわせる。
終末	4　自由についてまとめる。	○あなたは，あなたの自由をどのように大切にしていますか。「心のノート」のｐ.21 に書き込みましょう。 ・自分がしなければならないことをやってから遊ぶ ・きまりを守って自由行動をする	○「心のノート」のｐ18 p.19p.20 の読み聞かせをし，自由ということをまとめる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

自由は責任ある行動を伴ってこそ，自由な意志として生かされていくものであり，勝手気ままな生活では，かえって自己の自由な意志は生かされない。一人部屋になった文枝は，自由になることに有頂天になるが，日にちがたつにつれて，「大変だなあ。」と感じるようになり，自由について考えるようになる。文枝の心の内に視点を当てていくことで，自由と自分勝手の違いを際だたせていくことができる資料である。

２　指導過程の工夫

導入では，子どもたちのあこがれである自由に対する気持ちを出させることによって，自由に関心を持たせるようにした。

展開では，自由は責任ある行動を伴ってこそ，自由な意志として生かされていくことに気付かせるようにした。そのために，文枝が自由について学んだことを考えさせるとともに，自由な行動のよさを自分たちの体験から見つけ出すことによって，自由のよさを味わわせていくようにした。

終末では「心のノート」の読み聞かせや書き込みの作業を取り入れることによって，一人一人が自由をどのように大切にしているかをまとめていった。

３　発問の工夫

自由になった喜びを問うことによって，その中に自分勝手の思いが潜んでいること，自由の大変さを問うことによって，自由な行動の裏には責任ある態度が必要であることや，それができてこそ，本当の自由が味わえるのだということに気付かせるようにした。さらに，文枝が学んだことを考えさせることによって，自由と自分勝手の違いに気付かせるようにした。自由な行動のよさを自分たちの体験から見つけ出させる時の発問の表現については，児童にわかりやすくした方がよい。

４　児童の反応

自由のよさやあこがれから「自由になったらいいな」と思う児童は多かった。文枝の行動から，自由を手に入れても守らなければならないきまりや責任について，一生懸命考えていた。「自由を楽しむためにも自分のやらなければならないことはきちんとする」「自由と自分勝手は違う」などの意見が出て，自由を実現するために，何を大切にしていかなければいけないかにも気付き，自分の生活の中に生かそうとしていた。

５　授業後のフォローアップ

遠足では，自由行動の時にも責任を持ち，きまりを守り，気を付けて行動するよう話をした。合宿では，班活動をすることが多いので，助け合いながら，きまりを守って行動しようと声かけをした。

日々の掃除の時間にお互いに声を掛け合ったり，協力して係活動をしたりするようになってきたが，まだ，楽な方に流れてしまうことがあるので，よく考えて行動できるよう継続して取組む必要がある。

（栗原北小学校）

（1）　主題名　理想の実現　〔中学校　１－（４)〕　　関連項目　〔１－（５)〕

（2）　ねらい　真理を愛し，生きがいを求め，張りのある生活をしていこうとする意欲と態度を育てる。

（3）　資料名　「駅伝日本一　運命のたすきをつなげ」　（出典：NHK「プロジェクトＸ」より）

資料の概要

兵庫県西脇市に，高校駅伝最強のチーム「西脇工業高校」がある。全国優勝すること，史上最多の８回。しかし，西脇工業は，かつて荒れた時代があった。そして，一人の教師がそこに飛び込み，生徒と向き合いはじめた。彼は陸上競技を通して生徒の心を変えていったのである。その生徒の一人，中学時代「ごんたくれ」だった藤井は，高校で全国大会予選の第 1 区で一番になるまでに成長する。

（4）　学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　西脇工業高校について知る。	○西脇工業高校って知っていますか。 ・知らない ・陸上の強い高校	○西脇工業高校について補足説明をする。 （全国大会優勝 8 回・就職率 100%・かつて荒れていた　等）
展開	2　ビデオを視聴して，藤井について考える。 3　藤井が１区を走り終えた時の思いを，班で話し合い，発表する。	○荒れていた西脇工業の陸上部で，どんな生徒がどうなっていったのかを視聴しよう。 ・どんな生徒がいるのだろう ○西脇工業陸上部にはどんな生徒がいましたか。 ・林　・塚本　・藤井　・藤本 ○藤井が中学時代, 2000m走でいつも棄権を繰り返していたのはどうしてですか。 ・ビリになるのが怖かったから ○藤井は，どうしてビリが怖かったのだろうか。 ・周囲にどう思われるか気になったから ・自分の弱さを見せたくなかったから ○「ごんたくれ」の藤井が高校に入って, 4000mを走り終えて感じたことは何だろう。 ・できた喜び　・充実感　・自信 ◎中学時代「ごんたくれ」で，2000mさえ満足に走らなかった藤井が，全国大会予選で10ｋｍもの１区を一番で走りきって，次のランナーにたすきを渡したとき，何を思っただろうか。 ・陸上を続けてきてよかった ・やればできるんだ	○渡辺監督のもと，西脇工業陸上部が実質的な活動を始め，全国大会予選で優勝するまでの場面（約 13 分）を視聴する。 ○藤井という生徒を中心に，その変容を考えさせる。 ○藤井の心の内にある弱さをとらえさせる。 ○やりきったときの喜び・充実感を感じ取らせる。 ○藤井の変化について理解させる。
終末	4　人生の上で大切なことは何かを考えながら感想を書く。	○人生の上で（生きていく上で）大切なことは何だろうか。学習して感じたことを「道徳ノート」に書こう。 ・何かに打ち込むことは大切である・・・	○答えは求めず，問いかけて余韻を残しつつ感想を書かせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本教材は「ＮＨＫプロジェクトＸ『駅伝日本一　運命のたすきをつなげ』」の一部を活用した。読み物教材の苦手な生徒や読み取りのできにくい生徒などにとっては，視聴覚教材は取り取りかかりやすいものである。このビデオの全てを視聴するのではなく，「ごんたくれ（悪）」の藤井という生徒に焦点を当てて，生徒に見せた。中学校時代から投げやりで教師に反抗してばかりいた藤井が，高校で陸上に打ち込むようになって，できる喜び・充実感，自信を身に付けて全国大会予選で１０ｋｍもの１区を一番で走りきり，チームが初優勝した場面である。悪だった藤井に自分自身をだぶらせる生徒もいるのではないかと考え，藤井の姿を通して，やればできることや人間の可能性ということ等を学ばせたいと考えた。

２　指導過程の工夫

読み物教材の苦手な生徒のために，視聴覚教材を活用した。「ごんたくれ」の藤井の姿を追っていくことによって，彼の変化の様子，その原因を考えさせるようにした。また，その時々の彼の気持ちをとらえることで，続けることの大切さ・やればできるという充実感等を感じ取らせるようにした。その上で，生きていくのに重要なこととは何かを考えさせたいと思った。

３　発問の工夫

視聴覚教材を活用し，「ごんたくれ」の藤井の姿を追いながら，中学時代の藤井，高校に入ってからの藤井の様子をとらえていった。そして，「中学校時代『ごんたくれ』で，２０００ｍさえ満足に走らなかった藤井が，全国大会予選で１０ｋｍもの１区を一番で走りきって，次のランナーにたすきを渡したとき，何を思ったか」という中心発問にもっていった。それを考えることによって，生きる上での大切なものは何かを感じ取らせるようにした。

４　生徒の反応

視聴覚教材ということもあって，生徒たちは積極的に見入っていた。また，藤井の気持ちに対しても的確にとらえた意見が多く，例えば，中学時代の藤井に対しては「プライドが傷つくため自分から逃げていた」等，高校時代に対しては「自信・達成感を持った」等である。授業後の感想も，「自分から行動することが大切だと思った」とか「自分ももっとがんばらなくてはと思った」といった前向きなものが多く，自分のこととしてとらえていた。さらに，藤井の変化だけでなく，周囲の支え・仲間の温かさへも思いを巡らせた生徒もいた。

５　授業後のフォローアップ

生徒のその後の生活態度をしっかり見ていく。特に，今までいい加減な行動をとっていた生徒がどう感じ，これからの生活にどう反映させていくかを見つめていく必要がある。部活動への取組み方にも注意を注いでいく。また，本教材は３年生に実施したこともあって，今後の進路学習とも結びつけて考えていきたい。

（豊栄中学校）

（５）言葉づかい・あいさつの指導に生かす

時と場に応じた適切な言葉づかいやあいさつは，コミュニケーションの基本である。未知の人とあいさつを交わすことから新たな人間関係を築くこともできる。しかし，逆に言葉一つで人間関係を壊してしまうこともある。児童生徒の中には，進んであいさつができない，声をかけられても適切に対応できない姿もある。また，会話を単語ですませたり，語尾まではっきり言わない姿も見られる。最近では携帯電話が普及し，友だち言葉や短縮形の言葉を多用する姿も見られる。こうした会話等に見られる言語活動の乱れは，人間関係づくりをも阻害するものである。

言葉づかいやあいさつについては，個別あるいは学級・学年で，具体的な場をとらえて指導を行っている。国語科の学習の場面で，教材を通してことばの力をつけるとともに，学習規律の確立（発言のルール）等に努めている。また，児童・生徒会を中心に「あいさつ運動」を行い，家庭・地域と連携しながら意識の高揚を図っている学校は多い。保護者に対しては，学級懇談会や学年・学級だより等で児童生徒の現状やこうした取組みについて理解を求め，協力を求めている。言葉づかいには，児童生徒の心の状態が如実に表れることから，日々充実した生活を創り出していくことができるよう，わかる授業の展開や自分の思いが語れる学級集団づくりに力を入れたい。教職員が，児童生徒に対して思いやりをもった対応をすることは言うまでもない。

そこで，道徳の時間では，言葉づかいやあいさつに表れる人間関係や自身の心のありようをじっくりと見つめ直すことを大切にしたい。そして，状況に応じた真心のこもった礼儀正しい行いができるよう深めていきたい。さらに，望ましい人間関係を築くために，相手の立場や気持ちを考え，だれに対しても思いやりのある温かい心で接しようとする気持ちや，多くの人々に支えられ助けられて自分があることへの感謝の気持ちを育てていきたい。

指導に当たっては，役割演技等を積極的に取り入れ，実際にあいさつや対話を行ってみたり，ゲストティーチャーの体験から考えたりするなど具体的な場面を設定することで，より深く自分自身を見つめさせていきたい。

とりわけ，あいさつ運動は，「子育て三原則」に位置付け，学校・家庭・地域が一体となって取り組むことにより，一層指導効果が高まるであろう。参観日や研修会等を利用し，保護者や地域の方とともに考えていく場を設定することも有効である。

（1）主題名　気持ちのよい言葉　〔小学校中２－（1）〕

（2）ねらい　相手の気持ちを思いやり，時と場に応じた礼儀作法を心がける態度を育てる。

（3）資料名　「言葉のまほう」（出典：かがやけみらい３年　学校図書）

資料の概要

待ちに待ったゲームのソフトが発売になった。ぼくはあわてていて店に走って入ろうとした。その瞬間，中から男の子が飛び出しぼくたちはすごい勢いでぶつかった。ぼくはその子をどなりつけた。その子もどなり返してきた。あくる日，ぼくはスーパーにお使いに行った。角を曲がったとたん男の子とぶつかった。その子はすまなそうにあやまった。ぼくもあわててあやまった。その時，昨日の男の子のことが頭に浮かんだ。ぼくは，はっとした。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　顔の表情を見て感じたことを発表する。	○この写真（絵）を見て，どんなことを感じますか。 ・怒っていてけんかをしているようだ ・にこにこしていて楽しそう	○自由に言える雰囲気にする。
展開	2　資料「言葉のまほう」を聞いて話し合う。 3　「言葉のまほう」とはどういうことか考えてワークシートに書く。 4　自分の経験を振り返る。	○「よく前を見ろよ。このあわてんぼう。」とぼくがどなった後，相手はどう言い返したでしょうか。 （役割演技をする。） ・そっちこそ何してるんだ ・よく見ろよ ○　「あっ，ごめんね。だいじょうぶ」と，その子が言った後，ぼくはどう言い返したでしょうか。 （役割演技をする。） ・こっちこそ，よく見てなかったんだ ・ごめんね ○はっとしたぼくは，どんな気持ちだったでしょうか。 ・「ぼく」は自分の言葉遣いが悪かったなあと思った ◎「言葉のまほう」とはどういうことだと思いますか。 ・言い方によって相手の受け止め方が違ってくる ・礼儀正しい言い方や態度だと気持ちがいい ○友だちに言われて，うれしかった言葉や気持ちのよかった言葉はありませんか。 ・「ありがとう」といってくれた時うれしかった ・「おはよう」と気持ちのよいあいさつをしてくれた時，うれしくなった	○資料は三場面に分けて提示する。 ○どなられた時のいやな気持ちをおさえる。 ○相手を思いやるやさしい言い方の時はどんな気持ちになったか言わせる。 ○演技を見ていた児童にも始めの演技と後の演技の違いについて考えさせる。 ○礼儀正しいふるまいややさしい言葉遣いをすると相手も自分もいい気持ちになることに気付かせる。 ○友だちの経験を聞きながら自分のことも思い起こさせる。
終末	5　教師の説話を聞く。	○先生が小学校の時の話を聞いてください。 ・先生にもそんなことがあったんだな	○教師の体験を聞き自分の生活と重ねて考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

子どもたちは，いつも友だちとかかわりあいながら生活をしている。相手のことを考えずに傷つくような言い方をしたり，また反対にやさしく声をかけてもらい，うれしくなったりすることもあるであろう。普段の自分の言葉遣いについては，これまで考えた経験がないことが予想されるため，この資料を通じてお互いに気持ちのよくなる言い方とはどんな言い方か，また，礼儀について考えさせたい。

２　指導過程の工夫

２つの「ぶつかる場面」を分けて資料提示し，役割演技をすると効果的であった。役割においては教師と児童，児童同士など工夫するとよい。また，学級の実態により，同じ児童に２つの場面の役割演技をさせ，気持ちの違いを感じ取らせるのも効果があった。

役割演技を見ている児童にも演技の内容についての感想を言わせると価値観が深まった。

中心発問を「はっとしたぼくはどんな気持ちだったか」にしてワークシートを書かせてもよい。

３　発問の工夫

役割演技で表現しにくい児童には，教師が相手役となり，児童の思いが出やすいように言葉をかけていく。

展開後段の経験を振り返るところでは，児童の作文や日記を活用したり，教師が日ごろあいさつなどよくできる児童のことを紹介したりする方法もある。

４　児童の反応

役割演技をした児童に演技の後で感想を求めると「相手が怒ったように言うといやな気持ちがして腹が立った。」「やさしく謝ってくれた時は自分も悪かったんだから謝って，やさしくなれた。」という感想であった。一方，見ている児童も「言い方によって心の感じ方が違ってくる」ことがわかった。

２つの場面で同じ児童が役割演技をした場合も，「やっぱり，いい言葉遣いのほうが，うれしかった。」という感想であった。

児童同士の役割演技では，ぶつかった時「すみません。」とすぐに言えた児童もおり，自分の言葉で数多く発表できた。

５　授業後のフォローアップ

生活目標と兼ね合わせて，「オアシス」運動をする。教室に「オアシス」の言葉を掲示し，意識を高める。

朝の会・帰りの会でよかったこと（あいさつや言葉遣いを含めて）を発表し合う。

児童が心をひらくよう教師自らがあいさつをしていく。

オ	おはようございます
ア	ありがとうございます
シ	しつれいします
ス	すみません

（柿浦小学校）

（1）主題名　心をこめて接する　〔小学校高２－（1）〕　関連項目　〔２－（２）〕

（2）ねらい　常に礼儀正しく，真心をもって人に接しようとする態度を育てる。

（3）資料名　「気持ちと言葉」（出典：読み物資料とその活用　文部省）

資料の概要
日常生活の中での，ごくありふれた現象をとらえた随想３点から成り立っている。ここでは，２番目の資料の花屋さんの店先にぶら下がっている１枚の札「道を尋ねた人，１回につき１０００円，ただし礼儀正しい人はタダ」を取り上げ，気持ちと言葉について考えさせた

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　経験を出し合う。	○言われてうれしかった言葉を話し合う。 ・ありがとう　　・大きくなったね ・おはよう	○自由に出し合える雰囲気をつくる。
展開	2　資料から場面状況をつかむ。	○資料から，場面の状況をつかもう。 ・駅前の花屋さんには，不思議な札が下がっている	○資料の状況を共通理解させる。
	3　課題を確認する。	○課題を確認しよう。 なぜ「道を尋ねた人，一回につき千円　ただし礼儀正しい人はタダ　」の札をぶらさげたのだろう。	○児童が疑問に思っている状況から課題を設定する。
	4　考えを出し合う。	○課題に対する自分の考えを出し合おう。 【お金もうけ】 ・たくさんの人がやって来る ・尋ね人で商売ができない 【面倒だ，腹が立つ】 ・忙しくて商売ができない ・同じことを何度も聞かれる 【みんなのことを考えて】 ・言葉づかいや態度に気付く人になってほしい ・なぜだろうと立ち止まって考えるだろう	○ネームプレートを使い，課題に対する一人一人の判断とその理由をはっきりさせる。 ○理由の違いを分類・整理して板書し，自他の考えの違いに気付かせる。
	5　質問や意見を出し合い，追究する。	○お金を取ることが礼儀正しさにつながるのだろうか。 ・お金を取られないために意識するのでは ・その場限りのもので，本当の礼儀は身につかないのでは ○礼儀正しさとはどういうことだろうか。 ・相手のことを考えて心を込めて接することでは	○矛盾やくいちがいについて意見を出し合い，焦点化していく。 ○深めるために，左のような発問を準備しておく。 ○役割演技をしながら，体験的に考えさせる。
終末	6　まとめをする。	○今日の学習での自分の考えをまとめよう。 ・心を込めて礼儀正しく接したいな。	○自分を振り返りながら自分の言葉でまとめる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

日常生活の中のさりげない，それでいて考えさせられる一こまが描かれている資料３編。中でも２番目の資料は，児童が「おやっ。」と関心をもつであろう少し変わった札が店先にぶら下がっているというものである。札に込められた意味を考える中で，礼儀について考えることができるおもしろい資料である。

２　指導過程の工夫

「道を尋ねた人，１回につき１０００円。ただし礼儀正しい人はタダ」の札を準備し，駅前の花屋さんにこんな札がかかっていたと話す。児童の「なぜだろう」という思いから，学習課題を「なぜ，札をぶらさげたのだろう」と提示する。

課題に対する一人一人の考えををスタートとし，集団によって考えを深める。

言葉による思考だけでなく，本時では，役割演技を取り入れることにより，言葉づかいや態度について体感的に深めていく。また，導入でも役割演技を取り入れ，展開時と比較しながら深めていくこともできる。

３　発問の工夫

課題に対してのそれぞれの考えを出し合った後，「質問や意見はありませんか」と問う。ずれやくいちがいについて相手に質問することを通して，焦点化し深めていくためである。児童の思考の流れに沿いながら進めるが，花屋さんの札にある礼儀とお金とのかかわりから，「お金を取ることは礼儀正しさにつながるのだろうか。」という発問も準備し，考えを深めるきっかけにする。

４　児童の反応

課題に対して次のような意見が出された。「同じことを何度も聞かれるし，店の仕事もできなくて腹が立つから」「商売ができないので，お金儲けを考えて」「礼儀に気付いてほしいので」等々。

質問や意見を出し合う中で，「お金を取っていたら店の評判が悪くなり，お客は来ない。お金儲けどころじゃないし，礼儀にも気付いてもらえない。」という意見が出た。そこで「お金を取ることが礼儀正しさにつながるか。」について意見交流した。

お金を取られると思うと緊張して丁寧な言い方をするという意見もあったが，それは一時的なものであり，本当の力にはならず他の場所では役に立たない。それより，相手のことを思いやる気持ちや接し方が大切なのだと気付くことができた。

５　授業後のフォローアップ

授業後，意識して丁寧な言葉づかいを心がけようとする姿が見られた。しかし，日常生活での継続的な指導の中で身につけていくことが大切であり，そのためには，保護者や地域を含めての活動にしていきたい。今後も，よりよい人間関係を築いていくために，誰に対しても礼儀正しく，真心のこもった言葉や態度で接することができるよう取り組んでいきたい。

（竹尋小学校）

（1）主題名　親切のあたたかさ　〔小学校高２－（２）〕　　関連項目〔２－（１）〕

（2）ねらい　思いやりの心をもち，相手の立場に立って行動しようとする態度を養う。

（3）資料名　「心に通じた「どうぞ」のひとこと」（出典：東京書籍）

資料の概要

電車の中で，前に立つおじいさんに席を譲ろうと思った「ぼく」。しかし，「どうぞ」の一言がなかなか言えず，降りるふりをして席を立つが，その席に他の人が座ってしまう。乗客が少なくなったころ，やっとおじいさんも座っているのを知りほっとする。やがて，いくつかの駅を過ぎ，ふと人影に目を上げるとあのおじいさんが……。僕の手を包み，「ありがとう」と言い，降りていった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　資料を読み場面状況をつかむ。	○資料を聞いて場面状況をつかもう。 ・席を譲りたいが「どうぞ」が言えないぼく ・ぼくに，おじいさんはわざわざ「ありがとう」と言いに来てくれた	○ぼくの置かれている状況を共通理解させる。
展開	2　課題を確認する。	○課題を確認しよう。 ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう	○ぼくの置かれている状況から課題を設定する。
	3　考えを出し合う。	○自分の考えを出し合おう。 【驚きと喜び，嬉しさ】 ・おじいさんが気付いてくれていた ・おじいさんの優しさ，思いやり 【後悔，恥ずかしさ】 ・「どうぞ」が言えなかったぼくに「ありがとう」と言ってくれた ・わざわざ言いに来てくれた 【腹立たしさ，情けなさ】 ・大事な一言が言えない勇気のなさ ・おじいさんの温かさが心に響く分よけいに情けなくなる	○ネームプレートを使い，課題に対する一人一人の判断とその理由をはっきりさせる。 ○理由の違いを分類・整理して板書し，自他の考えの違いに気付かせる。
	4　質問や意見を出し合い，追究する。	○言わなくても心は通じるのだろうか ・心がこもっていれば態度で伝わることもあるが，言葉もある方が・・・ ・「ありがとう」は魅力的な言葉 ○言葉が伝えるのは，心だけなのだろうか。 ・その人らしさ，人柄・・・ ○本当に相手を思いやるとは，どうすることだろう。 ・相手に真心で接すること	○意見交流しながら，焦点化していく。 ○深めるために，左のような発問を準備しておく。 ○人の心の温かさを感じた体験などを出し合いながら考えさせる。
終末	5　まとめをする。	○今日の学習での自分の考えをまとめよう。 ・おじいさんの温かさは泣きそうになるぐらい嬉しい・・・	○自分を振り返りながら自分の言葉でまとめる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

児童は，お年寄りや幼い子に思いやりをもって接したいという気持ちを持っている。しかし，この資料の主人公（ぼく）のように，いざとなると，なかなか言葉や態度に表すことができない。そこで，この資料を使って，言葉や態度の背景にある相手を思いやる気持ちについて考え，相手の立場に立って行動しようとする態度を育てていきたい。

２　指導過程の工夫

おじいさんの優しさや真心に深く感じ入っている主人公（ぼく）に寄り添って考えさせるため，資料の後半部分（『～にっこり笑って，列車からおりていきました。』以降）をカットした。そして，文中から「ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう。」と学習課題を提示した。「泣きそうな顔でほほえんでいる」主人公を語るには，

・揺らいでいるぼくの思い
・おじいさんとぼくとのかかわり
・おじいさんの温かさ　　など，直接に気持ちを問わなくても，行為の背景にある心を語っていくことができると考えた。

３　発問の工夫

本資料の場合，ぼくは「どうぞ。」と言えなかったが，おじいさんはぼくの好意を受け止めたくれた。そこで，児童の思考の流れに沿うことが前提だが，「言わなくても心は伝わるのだろうか。」という発問を準備し，深めるきっかけとしたい。

４　児童の反応

資料後半をカットし，「ぼくは，なぜ泣きそうな顔でほほえんだのだろう。」と問うことにより，次のような意見が出た。

・席を譲ったことを，思いがけずわかってもらえた嬉しさや安堵感，存在感から。
・「ありがとう。」「座らせてもらいましたよ。」と言われ，おじいさんの優しさと「どうぞ。」と言えなかった自分自身への腹立たしさや悔しさが一層鮮明になったから。

・わざわざ声をかけ，手を包んでくれたおじいさんの心の温かさにふれたから。
・「ありがとう。」に対し「ごめんね。」の思いでいっぱいになったから。等々。

また，恥ずかしかったりタイミングを逃してしまったりで後悔したこと，思いきって声をかけ喜ばれたことや「ありがとう」と言われ心が和んだなどの体験も出された。何気ない言葉や態度という形の背景にある「心」の存在を実感することができた。

５　授業後のフォローアップ

相手に対する思いやりのない言葉や態度は，人の心を豊かにしない。人と人とが円滑な人間関係を保っていくためには，何気ない言葉ほど意識して使いたい。家庭との連携はもちろんのこと，ボランティア活動や高齢者とのかかわり，地域活動等の異なる年齢・体験をもつ集団の中での活動や体験をし，広く人とかかわる機会をもつことも大切ではないかと考える。

（竹尋小学校）

（1）主題名　礼儀の意義　〔中学校　２－（1)〕
（2）ねらい　礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動がとれるような態度を養う。
（3）資料名　「いただきます」　　（出典：３自分をのばす　暁教育図書　）
「礼儀って何だろう？」（出典：１自分を見つめる　暁教育図書
「サトウサンペイ『フジ三太郎』より」）

資料の概要
資料「いただきます」では，日本独特の食事のあいさつについて，筆者が体験した三つの場面を通して，その考え方を述べたものである。食事をするときのあいさつの言葉を考えさせるとともに，広くあいさつ全般について目を向けさせて，礼儀について日常生活と結びつけて考えさせていきたい。また，資料「礼儀って何だろう？」は，形だけのあいさつはおかしいことに気付かせたい作品である。

（4）学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　場面を設定し，実演する。	○山にピクニックに来た時，一人で食事する場を思い浮かべ，弁当を食べる前の動作を想像しよう。 ・一瞬とまどいを感じる ○食事をする前に「いただきます」というのはなぜだろう。 ・習慣　　・感謝の気持ち	○弁当箱とはしを準備し，代表者数名に実演させる。 ○「いただきます」の言葉から，あいさつを自らの問題として考えさせる。
展開	2　資料を読んで，あいさつについて考える。 3　日常のあいさつについて考える。	○資料「いただきます」を読もう。 ・改めて「いただきます」を考えてみる ○蕎麦屋で向かい合った店員さんの「いただきます」という言葉を聞いて，妙にうれしかったのはなぜだろうか。 ・気持ちの良いあいさつだったから ・自分と同じように「いただきます」と言ったから ◎日本に滞在していた外国人が，「いただきます」をいい言葉だと感じたのはなぜだろうか。 ・外国にはない習慣だから ・食事をする時の感謝の言葉だから ・食事をする時の決まった言葉だから ○あいさつによって，さわやかな気持ちになったことはありませんか。 ・朝「おはよう」と言われると気持ちがいい ・「ありがとう」と言われてうれしかった ○あいさつをする時は，どんなことに気をつけたらいいだろうか。 ・相手の気持ちを考える　　・心を込める	○あいさつをする側からされる側の視点に立ち，人の心を和やかにさせる効用を明らかにする。 ○なぜ関心を持ったのかを考えさせながら，この言葉が感謝の表れであることにふれ，ねらいに迫る。 ○あいさつは思いやりの心の本質であることを理解させたい。 ○あいさつをしようとする意欲を喚起させる。
終末	4　「礼儀って何だろう？」について考え，礼儀についてまとめる。	○「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見てどんなことを思いましたか。 ・形だけの礼儀になっている ○今日の学習を振り返って，「道徳ノート」に感想を書こう。 ・心を込めてあいさつをしていきたい	○礼儀の意義について考えさせる。 ○今後の生活に生かしていきたいことを考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

資料「いただきます」では，日本独特の食事のあいさつについて，筆者が体験した三つの場面を通して，その考え方を述べたものである。食事をするときのあいさつの言葉を考えさせるとともに，広くあいさつ全般について目を向けさせて，礼儀について日常生活と結びつけて考えさせていきたい。そのために，終末に「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を提示し，形式的な礼儀ではなく，心のこもった礼儀の大切さを感じ取らせたい。

２　指導過程の工夫

導入で場面を設定し，一人で食事をするときの様子を実演することにより，黙って食べ始める生徒，「いただきます」と言葉にして食べ始める生徒，手を合わせてから食べ始める生徒，それぞれのパターンを出させ，興味付けを行った。その上で「いただきます」という資料を読み，外国人が「いただきます」をいい言葉だと感じたのはなぜかを考えながら，改めて「いただきます」が感謝の気持ちであることを理解させた。そして，日常のあいさつの意義について考えさせた。さらに，「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見ながら，生徒たちの礼儀に対する意識を確かめた。

３　発問の工夫

「山にピクニックに来た時，一人で食事する場面を思い浮かべ，弁当を食べる前の動作を想像」し，実際に生徒自身に実演させることにより，授業への興味付けとした。また，自然に本教材に入れるように工夫した。そして，日本に滞在していた外国人が，『いただきます』をいい言葉だと感じたのはなぜか」という中心発問を考えながら，私たちの日常のあいさつについて考えを深めさせた。さらに，「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見せて感想を出させることにより，虚礼ではなく心こもったあいさつの大切さを実感させた。

４　生徒の反応

場面を設定し，一人で弁当を食べるときの様子を実演させたのは，生徒それぞれの個性が出ていて，授業を盛り上げる効果があった。そして，生徒自身が発した「いただきます」という言葉から本教材に自然に入れることができた。また，４コマ漫画の提示では，「本当の礼儀正しさにはなっていない」とか「両親の考え方はおかしい」など様々な考え方の交流ができた。生徒の多くは２年生で学習した礼儀についてよく覚えており，「虚礼」という言葉がすぐに飛び交い，あいさつについて再度考えを深めることになった。

５　授業後のフォローアップ

日常生活の中でどれだけあいさつが実践できているか，朝や帰り，授業で，部活動で等，全教職員でしっかりと見ていく必要がある。また，地域の人々へのあいさつはどうか，町内から入ってくる情報にも耳を傾けたい。校内では，生徒会の生活委員会を中心にしっかりと取り組んでいきたい。

（豊栄中学校）

（６）その他（ルール）の指導に生かす

平成 12 年 12 月に総務庁青少年対策本部が実施した「低年齢少年の価値観等に関する調査」では,「小学生・中学生の規範意識」について次のように述べている。

> 小学生・中学生の９割以上が,「万引をする」「クラスの子をいじめる」「学校の品物や施設をわざとこわす」ことについて,「してはいけないと思う」と回答している。「先生にさからったり，口答えする」「授業中，いねむりする」「友達にうそをつく」「順番待ちの列に割り込む」などについては７割が「してはいけないと思う」と回答しているが,「親にさからったり，口答えする」ことは５割となり，許容的な傾向が見られる。全体的に小学生よりも中学生に許容する傾向が見られる。

また，本県が実施した「義務教育に関する県民意識調査（平成１４年７・８月実施）では,「豊かな心を育てるため学校が力を入れるべき点は何だと考えるか」という設問に対して,「社会のルールやマナーを身につけさせる指導の充実」という回答が最も多かった。

これまで, 校則などのきまりを破った児童生徒に対しては, 個別指導を行うとともに, 学級活動における全体指導や, 家庭と連携をとった指導を行っている。また, 学校のきまりを守ることについては, 児童・生徒会で話し合って，全校児童生徒への呼びかけを行うなど，児童生徒が主体的に取り組むような指導も行われている。こうした指導は今後とも継続していくことで, 規範意識を高めていくことが必要である。

さらに, 未然防止の観点から, 道徳の時間において規範意識を高める取組みを進め，きまりを定める意味や，きまりを守ることの意義等を考えさせたい。そのことを通して，自分たちの生活や権利を守り，高めていくためにきまりがあり，それを守ることでみんなが安心して暮らすことができるということを理解させたい。

指導に当たっては，次のことを大切にしたい。

- ルールの必要性，ルールを守ることの大切さを考えさせる。
- ルールを破ることに対しては，批判的に捉えさせる。
- ルールをよりよいものへ改善しようとする視点を持たせる。

その際，各人のおかれた立場をしっかり捉え，思いやりをもって判断させたい。

平成 14 年度からすべての児童生徒一人一人に手渡された「心のノート」には,「法やきまりを大切に」（小学校５・６年),「法やきまりを守る気持ちのよい社会を」（中学校）というキーワードのもとに，法やきまり・マナーについて考え，ふりかえるページが紹介されている。また, 文部省（当時）が平成９年に作成した「道徳教育推進指導資料（指導の手引）６」（小学校版・中学校版）は,「社会のルールを大切にする心を育てる」というテーマで読み物資料とその活用例が示されている。これらを有効に活用することで，指導効果を一層高めてほしい。

「心のノート　小学校５・６年」Ｐ．７８～７９

「心のノート　中学校」Ｐ．８８～８９

（1）主題名　みんなのためのきまり　〔小学校高４－（２)〕

（2）ねらい　法やきまりの意義を理解し，社会生活をよりよくしていくために，自分が果たすべきことは果たそうとする心情を育てる。

（3）資料名　「学校のきまり」（出典：新しい道徳６　光文書院）

資料の概要

聡子の学校では，「昼休みの時間，校庭でサッカーをしてはいけない」というきまりがある。しかし，ボールを持って外に出た人，ボールを蹴ったり投げたりしている人がいる。そんな中で，蹴られたボールが下級生の女の子に当たってしまった。このことをきっかけにサッカーが禁止されている昼休みの運動場でのボールの使い方をめぐって，６人から意見が出てまとまらない。その意見をもとに自分の意見をまとめ，法やきまりへの認識を深めていく。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1　きまりについて話し合う。	○きまりがあるので「きゅうくつだなあ。」と思ったことはありませんか。 ・急いでいる時に廊下を走ってはいけない ・キーホルダーやマスコット人形を持ってきてはいけない	○きまりに対する懐疑的な考えを出すことで次の学習段階へつなげる。
展開	2　資料を読んで話し合う。 3　学校のきまりについて考える。	○あなたはどの意見（６人の登場人物）に賛成ですか。 ・蹴っているだけでもサッカーだ ・休憩時間だから好きな遊びをしたい ○その理由を書きましょう。 ・サッカーは危ないから ・サッカーとけりあいは違うから ○ 同じ意見の人と集まって，意見を紹介し合いましょう。 ・蹴り合いをしているだけだよ ・危ないからやめてほしい ○　発表して，お互いの意見を紹介し合い，意見や質問を出し合いましょう。 ・サッカーは禁止だからきまりを守らないといけない ・蹴り合いをしているだけだからきまりを破っているのではない ○自分の考えをまとめてみましょう。 ・自由に遊びたい気持ちもわかるけど，けがにつながるので，サッカーはしないほうがよい ◎学校にはいろいろなきまりがありますが，それはどうしてつくられたのでしょう。 ・みんなが楽しく遊ぶため ・けがをしないように	○資料の中の書き込み欄を活用し，その理由も書かせる。 ○いろいろな人の考えや理由を聞くことで，自分の考えに固執しないよう助言する。 ○書き込み欄に記入させる。 ○導入で取り上げたきまりを再び取り上げ，きまりがあるわけを考えさせる。
終末	4　本時のまとめをする。	○校長先生の「学校のきまり」に対する思いを聞きましょう。 ・最高学年として考えていこう	○校長先生の思いや考えを聞くことで，自分のこととして考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

法やきまりは社会をよりよくしていくための約束事であり，その意義を理解できると，社会生活の中で果たすべき心構えが少しずつ育っていく。本資料の学校では,「昼休みの時間，校庭でサッカーをしてはいけない」というきまりがあるが，ボールの使い方をめぐって 6 人から意見が出てまとまらない。その意見をもとに，児童一人一人に考えを持たせたり，友だちの意見を聞かせたりする展開をしていく中で，法やきまりへの認識を深めていくことができる。

２　指導過程の工夫

導入では，きまりを意識した経験を想起させることで，身近な話題であるきまりについて考えやすいようにした。

展開では，自分の考えをしっかり持たせるために，登場人物の中から自分の意見に近いものを選び，その理由も併せて資料の中の書き込み欄に書かせるようにするとともに，同じ意見のグループ内で意見を紹介し合い，自分の意見をまとめることによって，各自の思いを気軽に発言させ，学習が活発になるようにした。

終末では，校長先生の「学校のきまり」に対する思いを聞かせることで，自分のこととして考えさせるようにした。

３　発問の工夫

きまりで，不自由な生活をもたらすことがあることを話題にし，きまりに対する懐疑的な考え方を出すことによって，次の学習段階できまりに対する意見が出やすいようにした。

自分たちの学校のきまりができた理由を考えさせることによって，その意義について理解させていくようにした。そして，みんなも学校という社会の一員であるということを自覚させ，よりよくしていきたいという意志を持たせるようにしていった。

４　児童の反応

「きまりがあるから窮屈だなあ」と感じている児童は多いが,「きまりは必要だ」と意識している意見が出た。いろいろな意見の中から, 対立した意見を討論することで, 自分の考えをはっきりさせていった。学校のきまりがなぜ作られたのかを話し合いながら,「みんなが楽しく遊ぶため, けががなく安心して生活するためにきまりがあるのだ」という意見から，きまりの意義や必要性に気付くことができた。

終末で，校長先生の話を聞き，６年生としての自覚を持ちながら，よりよい学校生活を送りたいと感じていた。

５　授業後のフォローアップ

学校生活の中で気をつけていきたいきまり，守っていきたいきまりについて，自分たちの生活の中から見つけられるよう，学級活動の中でも考えさせていくようにしたい。また，児童会活動や委員会活動など，最高学年としての意識づくりに生かすことができたので，日常生活の中での行動化が図れるようにしていきたい。さらに，家庭での約束事など家庭教育との連携にも生かしていきたい。

（栗原北小学校）

（1）主題名　自由と自分勝手　〔小学校高１－（３)〕

（2）ねらい　自由の大切さを理解し，自他の自由を尊重するとともに，規律ある行動をしようとする態度を養う。

（3）資料名　「修学旅行の夜」（出典：明日をめざして６年　東京書籍）

資料の概要

修学旅行の宿で，夕食後,班のみんなから「消灯後も自由に思うようにしたい」という話が出た。ただし，決してさわいでいいということではなく，できるだけ静かに寝ようという約束をした上で……。しかし，消灯後，だんだんみんなの話し声が大きくなってしまう。注意してもきかないし，私自身も普段味わえない楽しさがあり，ついおしゃべりの仲間に入ってしまった。途中で先生に注意を受けたが，いい気になってまくら合戦になり大さわぎになる。隣の部屋の人が静かにするよう言いにきた後,先生に「自由と自分勝手の違いを考えなさい。」と言われてしまう。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　修学旅行で楽しみにしていることを発表する。	○みんなのアンケートの中で一番多かったのは何だと思いますか。 ・宿泊するホテルの夜 ・観光	○事前にアンケートをとっておき，児童が修学旅行で楽しみにしていることを把握しておく。
展開	2　資料「修学旅行の夜」を聞いて話し合う。 3　「心のノート」を聞いて考えを深める。	○どんなきまりがあったでしょうか。 ・できるだけ静かにねよう ○班のみんなや私は，どういう気持ちでさわぎ始めたのでしょう。 ・修学旅行なんだからいいじゃない ○隣の部屋の人はどんな気持ちで注意したのでしょう。 ・静かにしてほしい ・眠れない ・人の迷惑を考えてほしい ◎先生に注意された言葉「自由と自分勝手の違い」を考えてみましょう。 ・自由は人のことを考えながら自分のしたいことをする ・自分勝手は人のことを考えないで自分だけがよければよいと思っている ○自由にできたこと，自分勝手をしてしまったことを振り返りながら，「心のノート」を聞きましょう。 ・わたしの考える「自分に対する責任」とは・・・ ・私の自由は人に迷惑をかけるのではなく自分が考えたやりたいことをやることだ	○自分たちで決めた約束であることを確認する。 ○班長･副班長としての立場についても考えさせる。 ○自分たちの楽しみが他の人の迷惑になっていることに気付かせる。 ○何が自由で，何が自分勝手なのか，自分の言葉でワークシートにまとめさせる。 ○「心のノート」P18 から P21 を参考にする。
終末	5　教師の説話を聞く。	○先生の話を聞きましょう。 ・先生にもそんな体験があったんだ	○本当の自由とはどういうことか心に残るように話す。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

少子化でわがままになりがちな現在の児童に本当の自由とは何か知らせるよい機会である。自由とは責任を伴うもので，自分勝手とは違うことをこの資料を通して把握させたい。

修学旅行などの楽しみな行事の時，自分たちだけが楽しめば人に迷惑をかけてもよいのか，規律ある行動について考えさせられる資料である。

修学旅行や合宿などの前後のどちらでも扱うことができる。

２　指導過程の工夫

導入でアンケートしたものを取り入れると，興味をもって資料に入ることができるし，雰囲気づくりにもなった。

「ちょっとぐらいしゃべっても」という自分たちの楽しみについて共感させた。それが，人の迷惑になっていることに気付かせることで，自由とは何かを考えさせることができた。

「自由」と「自分勝手」の違いを児童の言葉で言わせ，両者を比較できるように板書の工夫をした。

「心のノート」を活用して，「自由」の意味を考えさせた。

３　発問の工夫

班のみんなの気持ちに共感する補助発問を続けてした。その後で，全く別の立場である隣の人の気持ちについて発問することは，相手の心情を考える上で効果的であった。

「自由」と「自分勝手」の違いについて考えさせる場面では，発表した児童の意見について聞いている児童も感想を言うように仕向けていった。

４　児童の反応

「班のみんなや私は，どういう気持ちでさわぎ始めたか」という発問に対して「みんなが遊んでいたので一緒に遊んでしまった。」などの正直な発言が多かった。

「自由と自分勝手」の違いでは，自由は「人に迷惑をかけずに自分の好きなことをすること」「みんなのことを考えながら楽しく過ごすこと」「しかられないこと」，自分勝手とは，「自己中心的に自分のことだけをすること」「人に迷惑をかけてしまうこと」「きまりをやぶって，自分のやりたいことだけをすること」などの意見があった。「心のノート」を読みながら，「自由」について何となくではあるが，意識することができた。

５　授業後のフォローアップ

全員が集まる児童朝会などの集合の仕方を意識させる。そして，遊びの中でも自分勝手にするのではなく，規律について考えさせる。

また，最高学年の自覚をもたせるように，他学年とのかかわりをもたせ，責任をもって行動したことに対して認めてやり，励ましていく。

（柿浦小学校）

（1）主題名　公正公平な態度で　〔小学校高４－（３)〕

（2）ねらい　自分の利害や好き嫌いにとらわれず，誰に対しても公正に判断し，公平に接していこうとする態度を育てる。

（3）資料名　「ぼくは後悔しない」（出典：明日をめざして６年　東京書籍）

資料の概要
三郎の組の学級会の議題は７人の運営委員が投票箱を開け，そこに入っている議題の中から決めることになっている。一番多かったのは，新聞係への注文と学級のボールの使い方であった。ところがいつも決まった人だけがボールを使っている中に，仲のよい正夫君が入っていた。自分の１票でどちらの議題になるか決まってしまう。三郎は正夫のことが気になったが，みんなが不満をもっていたボールについての議題を選んだ。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　公正･公平について考える。	○公平ですか。不公平ですか。 ・女の子だからドッジボールに入れないのは・・・ ・車椅子に乗っているからゆるいボールを投げるのは・・・	○本当の公正･公平とはどういうことか, ゲーム的に絵を見せて考えるきっかけにする。
展開	2　資料「ぼくは後悔しない」前半を聞いて話し合う。	○「ボールの使い方」に投票した三郎はどんなことを考えていたでしょうか。 ・自分の決定を間違っていないと思いながらも,正夫のことを考えると心がしずむ ◎下を向いたまま歯をくいしばる正夫を見つめる三郎はどんな気持ちでしたか。（価値観の類型化をする） A　これでよかった B　まよう C　言わなければよかった	○正夫のことが気になっている三郎の気持ちを捉えさせる。 ○価値観の類型化をすることで, 自分の考えをはっきりさせる。
	3　資料後半を聞いて話し合い, 三郎の気持ちをワークシートに書く。	○正夫に議題のことを話した後,三郎はどんな気持ちになったでしょうか。 ・みんなのことも考えて公平に提案したんだから，これでいいんだ ・正夫はどう思ったかな，でもはっきり自分の気持ちが言えたからよかった	○公正公平な態度で接することができた三郎の気持ちに共感できるようにする。
	4　生活を振り返る。	○今まで迷ったけど正しいことをしてよかったと思うことはありませんか。 ・仲がいい友だちだけでなくいろいろな人に声をかけて係活動をした	○振り返りができにくい場合は普段の児童の様子から気づいたよいところをほめていく。
終末	5　教師の説話を聞く。	○野球の選手のことを話します。 ・そうか，公平に堂々とプレイしているんだな	○今後への意欲をもたせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

友人関係に敏感であるこの時期に，誰に対しても公平に接していこうとする態度を育てていくのには適した資料である。

児童は主人公になりきって葛藤し，思い悩むであろう。そして，公正公平な態度で臨んだ時，気持ちがすっきりする。本当の人間関係を築くにはどうしたらよいかを気付かせていきたい。

２　指導過程の工夫

導入では，絵を見せてゲーム的に公平か不公平かをとらえさせ，公正・公平の意味を考えるきっかけにした。

また，資料提示をしながら，友情と公正のはざまで悩む三郎の気持ちに共感させることで児童の心に揺さぶりをかけた。

展開前段では，価値観の類型化を行い，ネームプレートを黒板にはらせた。それぞれの立場の思いを話し合い，友だちの意見を聞きながら自分の考えを変えたり，より深めたりしていった。

ワークシートでは，高い価値観にふれた時の気持ちよさやすっきりした気持ちを主人公になりきって味わわせて書くようにした。

３　発問の工夫

価値の類型化をする場面では，高い価値を求めるのではなく本音が語れるようにした。低い価値がでない時は，教師が低い価値を出していくことも児童の心を揺さぶるために必要である。

類型化の場面で「迷う」という意見の児童には迷っている理由を発表させ，どういう理由で迷っているのかを明確にさせた。

４　児童の反応

導入では，「女の子だからドッジボールに入れないのは不公平だ」「車椅子の子に弱い投げ方をするのは公平」などの意見が出て，公正・公平を考えるきっかけとなった。

類型化ではほとんどの児童が「まよう」「言わなければよかった」であった。その理由としては，「友だちにきらわれたくないから」という意見が多く，この時期の児童にとって友だちにどう思われているかが気になっているという本音がわかった。

「まよう」「言わなければよかった」という児童は話合いの中で葛藤しながらも，高い価値観を深めていった。

５　授業後のフォローアップ

学級での集会活動で，みんなのためにどうすればいいかという視点で話し合えるように支援する。

給食当番など普段の活動の中で役割分担を公平に決めているか意識させる。

正しいことを「正しい」と言えるように自分の意思を表現する場面を多くもつようにしたい。

（柿浦小学校）